

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第１回加東市滝野地域小中一貫校開校準備委員会
開催日時	令和４年５月３１日（火）１９時３０分から２１時００分まで
開催場所	加東市地域交流センター　２階　研修室
議長の氏名（委員長　野瀬　光）	
出席及び欠席委員の氏名	
【出席委員】２５人	
芹生一二委員　高田好幸委員　澤田　眞委員　藤森敬史委員　野瀬　光委員 大久保信三委員　大久保祥男委員　阿江孝仁委員　末廣義隆委員　藤井智章委員 神戸つかさ委員　岸　祐馬委員　藤尾花奈子委員　重松祐介委員　川越勝則委員 衣笠比佐志委員　藤川かほる委員　川越一宏委員　長谷川貴典委員 安田文子委員　大江みさ子委員　前川妙子委員　後藤浩美委員　吉田ひとみ委員 岸本大介委員	
【欠席委員】４人	
三村芳輝委員　玉田裕二委員　岡崎　寛委員　合田忠弘委員	
説明のため出席した者の職氏名	
【教育委員】	
田中寿一教育長職務代理者　藤原哲史教育委員　後藤純子教育委員 岸本恵一教育委員	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
教育長　藤本謙造	
教育振興部長	田中孝明　こども未来部長　広西英二
こども未来部参事（小中一貫教育担当）	神田英昭
こども未来部小中一貫教育推進室	室長　丸山真矢
こども未来部学校教育課	副課長　井上裕子
こども未来部小中一貫教育推進室	副課長　高田　篤
同	係長　原　英孝
同	係長　輦　あゆみ
同	主査　柴崎俊之
同	主事　上月慧太
同	主事　上山裕之

議題、会議結果、会議の経過及び資料名

【議題】

- (1) 委員長、副委員長の選出について
- (2) 開校準備委員会組織について
- (3) 今後の予定について
- (4) 意見交換

【会議結果】

議題(1)～(4)について資料に基づき、審議しました。

【会議の経過】

1 開会

教育長あいさつ

2 挨拶

[各委員・事務局員・教育委員 自己紹介]

3 議事

(事務局)

それでは議事に移ります。まず、(1) 委員長、副委員長の選出でございます。事務局から説明させていただきます。

[加東市滝野地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱について説明]

(事務局)

事務局から説明が終わりました。委員の皆様方におかれましては、委員長、副委員長の選出をお願いしたいと存じますが、何かご意見はありますか。

(委員)

事務局案はありますか。事務局の方で案をお持ちであればお聞かせ願いたい。

(事務局)

開校準備委員会の委員に関しましては滝野地域の各種団体の代表に集まっております。

この会議を運営し、進めていく関係上、委員長には令和2年度の滝野地域小中一貫校建設地検討委員会の委員長かつ、地域代表、代表区長の野瀬委員に、そして副委員長には、小中一貫校という学校に大きく関係する内容になりますので、滝野中学校校長の後藤委員をお願いすればどうでしょうか。

[一同拍手]

(事務局)

ありがとうございます。

拍手をもって、承認とさせていただきたいと思います。

それでは野瀬委員に委員長を、後藤委員に副委員長をお引き受けいただきたいと思います。

再度、資料 2、開校準備委員会要綱をご覧ください。

第 6 条では、教育長が必要と認めた場合、委員会に顧問を置くことができるとしています。

教育長から提案をさせていただきます。

(教育長)

それでは失礼します。第 6 条に顧問を置くことができるとあるので、私の方から説明させていただきます。

平成 27 年から小中一貫教育の研究会を教育委員会の方でしており、大学の先生、地域の方々、保護者の皆さん、学校の先生方にお集まりいただいて、小中一貫校に関する協議をさせていただいたという例がございます。その時から小中一貫教育にご尽力いただき、今までの経過もよくご存じの芹生一二さんに顧問に就任していただくというのはいかがでしょうか。

[一同拍手]

(事務局)

ありがとうございます。

拍手をもって承認とさせていただきます。それでは、芹生委員に顧問をお引き受けいただきたいと存じます。

野瀬委員と後藤委員は委員長席、副委員長席に移っていただき、委員長、副委員長、顧問から一言ずつごあいさつを頂戴したいと思います。

よろしくお願いいたします。

[委員長・副委員長・顧問挨拶]

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、これからの議事進行は、委員長にお願いしたいと思います。委員長お願いします。

(委員長)

それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。

議事の 2 番の開校準備委員会組織について、そしてそれから 3 番の今後の予定についてというところで事務局から説明をお願いします。

(事務局)

開校準備委員会組織の説明の前に、滝野地域小中一貫校の経緯について、ご説明させていただきます。

本日、配布させていただいております「小中一貫教育だより」をご覧ください。

こちらは、去年の 5 月に滝野地域の園児・小学生・中学生の保護者の皆様に配布させていただきました「小中一貫教育だより」です。

滝野地域小中一貫校の建設地についてお知らせしています。

令和 3 年 4 月に東条学園小中学校が開校しました。加東市では、順次、社地域、滝野地域と、小中一貫校の建設を進めていきます。

小中一貫校の設置場所や施設形態については、平成２７年に地域ごとに設置した「小中一貫教育推進協議会」での協議結果を踏まえ、教育委員会から以下のとおり方針を示していました。

加東市における小中一貫校整備方針ですが、滝野地域の整備方針として、設置場所は、滝野中学校周辺が適切、施設形態は、教育効果及び安全面を考慮した一体型校舎とするとしていました。

加古川に近い滝野中学校周辺では、過去にも洪水時に心配がありましたが、加古川の河川改修工事が進むこと、また、建設予定地は滝野地域の中心地であり、児童生徒の毎日の教育活動を考慮すれば、滝野中学校周辺が妥当であるとの推進協議会での協議結果に基づき、計画を進めてきました。

その後、平成２８年６月に国土交通省から、「想定最大規模の降雨（降雨確率１／１０００年超）による洪水浸水想定区域図」が公表され、滝野中学校周辺は、５ｍから１０ｍ未満の浸水区域とされました。そのため、改めて令和３年３月に「建設地検討委員会」を立ち上げ、「加東市風水害ハザードマップ」の内容について説明を行い、地域・学校・保護者の代表に再度建設地について検討していただきました。

検討していただいた結果、滝野地域小中一貫校の建設地予定地は、洪水浸水の危険性について提示があったものの、

- ①現在の予定地が、滝野地域の中心に位置すること。
- ②現在の予定地以外で、学校用地として必要な面積を確保することが困難であること。
- ③想定最大規模の降雨では、自らの生命の安全の確保を優先させる状況であり、学校の立地により危険を回避するものではないこと。

以上から、滝野中学校周辺が妥当であるとの検討結果となりました。

教育委員会では、検討していただいた結果をもとに、建設予定地を、当初の計画通り、滝野中学校周辺として進めてきています。

それでは、開校準備委員会組織について説明させていただきます。

資料１をご覧ください。

滝野地域小中一貫校開校準備委員会の委員名簿でございます。

開校準備委員会の委員には、滝野地域の各種団体から選出していただいています。

委員の構成ですが、先程ご説明させていただいた令和２年度にお世話になりました建設地検討委員会の委員様、地域の代表として区長様、また、学校、園の保護者の皆様、学校評議員の皆様、学校関係者の皆様、計２９名で組織し、開校に向けて、幅広く意見を頂きたいと思っております。

続いて、資料３をご覧ください。

「未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進」と題しまして、「加東市の取り組む小中一貫教育」や「開校準備委員会の役割と今後の予定」をご説明させていただきます。（事務局）

平成２７年度の滝野地域小中一貫教育推進協議会での協議から、今年度の開校準備委員会の設置まで、７年が経ちました。

令和２年度の建設地検討委員会でお世話になった方々も含め、新たに滝野地域開校準備委員会が本日、スタートしました。今後、令和９年度開校に向けて、滝野地域の子どものために、素晴らしい学校を開校できますよう、委員の皆様のお力をお貸しくだ

さい。

さて、本日は、第1回目ということで、加東市が目指す「小中一貫教育」について皆様と共有するお時間をいただきたいと思います。

本市では、昨年度から市内の小中学校で小中一貫教育の取組を始めています。小中一貫教育とは、小学校と中学校の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通してつながりのある教育を目指す取組です。初めに、加東市の取り組む小中一貫教育について、次に開校準備委員会の役割と今後の予定についてお伝えします。

それではまず、加東市の小中一貫教育の取組について説明します。

本市では、「人間力の育成」をめざし、小中一貫教育に取り組んでいます。人間力とは、学校教育を通じて習得される「基礎学力」、その上に構築される「思考力」「判断力」「表現力」などの知的能力、「規範意識」や「他者を尊重してお互いを高め合う力」などの対人関係能力など、一人の人間として力強く生きていくための総合的な力です。市立小中学校では、教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育に取り組む中で、人間力を育てています。

小中一貫校には、3つの形態があります。

1つめは、義務教育学校

2つめは、併設型小学校・中学校

3つめは、連携型小学校・中学校です。

東条学園小中学校は、「義務教育学校」です。義務教育学校では、一人の校長が学校教育目標を決め、9年間を通して系統的な教育を行います。児童生徒数が約550名の東条学園小中学校では、校長が一人でも、子どもたちの顔が十分に見える学校運営ができます。

一方、社地域、滝野地域の小中一貫校は、「併設型小学校・中学校」です。東条学園小中学校と学校種は異なり、児童生徒数も1000名前後になりますので、小学校と中学校のそれぞれに校長を置きます。施設一体型の利点を生かし、東条学園小中学校と同様、学校目標を小中学校で統一し、9年間を通して系統的な教育を行います。職員室も1つにし、小中学校の教員が一体となって、小中一貫教育を進めていきます。東条学園小中学校と形態は違いますが、小中一貫教育の目指す方向性と目標は3地域とも変わりません。

また、本市では小中学校の教員間で、9年間を通して育むめざす子ども像を共有するため、地域ごとに「小中一貫教育グランドデザイン」を作成しています。このグランドデザインは、市立学校に通われている全保護者にも配布しており、目指す子ども像を、学校だけでなく、家庭や地域とともに共有し、子どもたちを育てています。

本市では、小中一貫教育の様々なメリットを最大限に生かしながら、義務教育9年間を、4年・3年・2年という3つのステージを意識して教育活動を行っていきます。

まず、初めの4年間で第1ステージとし、学習面での基礎基本や生活・学習習慣の定着を図ります。次の3年間で第2ステージとし、第1ステージで身につけた基礎基本を徹底させ、思春期の課題に対応していきます。

これまでの小学校と中学校のつなぎ目である第2ステージは、教員が連携し、各教科の専門教員が相互の乗り入れ授業を行います。専門教員の授業を5年生から積極的に実施し、7年生の教科担任の完全実施を円滑に行います。

そして、義務教育9年間の最後の2年間で第3ステージと捉え、15歳の春に向け、自主自立の態度の育成や興味・関心・能力に応じた個性の伸張を図っていきます。

9年間の一貫したカリキュラムを基本に、これまでの取組の一層の充実に加え、日常的な異学年交流や学年や教科を越えたつながりを意識した学習活動など、小中一貫教育ならではの取組を通して、ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもを育成していきます。

また、小中一貫教育では、次の3つのつながる取組を大切にしています。

1つ目は「学びがつながる取組」、

2つ目は「ひととつながる取組」、
3つ目は「地域とつながる取組」です。

では、市立学校の取組を紹介します。

1つ目の、学びがにつながる取組です。

小中一貫教育では、小中学校教員の相互乗り入れ授業により、複数指導や小学校での教科担任制を充実させます。

東条学園では、昨年度、英語、社会、保健体育の専門の免許をもつ教員が5・6年生に対して乗り入れ授業を、技術・家庭科の免許をもつ教員が7・8・9年生に対して乗り入れ授業を行いました。いずれも専門性をいかした授業や子どもの実態を踏まえたきめ細かな授業が行われています。

他にも、子どもたちが互いに切磋琢磨できる環境を整えるとともに、共同学習や少人数学習など、効果的な学習形態を活かした授業を展開しています。

社、滝野地域では、小学校教員が中学生に対して、中学校教員が小学生に対して授業を行う出前授業を実施し、小中間の授業づくりの研修機会を設けています。授業後、教員からは、「9年間の学びを見通すことが大切で、現在の子どもの学びが、次に、どの学年のどの学習につながっていくのかを意識して授業することが重要だと思った。」や「小学校、中学校の教員が、普段から小中学校の教科書を見て研究しあうことが大切だと感じた。」などの感想が寄せられています。

今後も、東条学園での乗り入れ授業や社、滝野地域での出前授業をより一層推進し、小中学校教員間の学びを深め、指導方法の研究を進めます。

東条学園小中学校では、総合的な学習の時間を活用し、6年生と9年生が共に平和学習に取り組んでいます。

今年度、6年生はこれまでの修学旅行にあたる校外行事で広島市の平和記念公園を、9年生の修学旅行では沖縄県のひめゆりの塔を訪問しました。

6年生の校外学習の前には、9年生から修学旅行で学んできたことを伝える「つなぐ平和学習会」が開催されました。この取組によって学びをつなげ、子どもに国際社会の平和や発展に貢献する態度を育成しています。

小中一貫教育では、大切にしたいテーマや学習を系統的に組み込むことで、学びに向かう力を強めます。

2つ目は、ひととつながる取組です。

小中一貫教育では、子ども一人一人の個性や能力を活かし、自尊感情や思いやりの心を育むため、異学年交流や縦割り班活動、社会貢献活動等、発達段階に即した系統性のある学校行事や体験活動を大切にします。

本市では、これまで、自然学校や平和学習などの小中間連携、児童会・生徒会交流や学習発表会への出演などの小中間連携を大切にしてきました。

そのかいあって、東条学園では、開校時の4月当初より、東条東・西小学校の子ども同士がすぐに打ち解けて一緒に遊ぶ姿、互いに認め合い協力して学ぶ姿がありました。

滝野地域においても、引き続き小中一貫校開校年度に向けて、滝野東、滝野南小学校間や2小学校と滝野中学校間のつながりを大切にした取組を推進します。

ひととつながる取組の一つとして、次のような姿が見られました。

東条学園では、入学式の際に、9年生が1年生の手をつないで入場する温かい場面がありました。また、体育大会の際には、4年生が第1ステージの1・2・3年生を、9年生が、第2ステージの5・6・7年生を力強くリードする姿がありました。このように、小中一貫教育では、学年を越えた交流を意図的に数多く組み込むことで、「上級生への憧れ」と「下級生への思いやり」を育み、子どもが自主的に学校文化を醸成することを目指しています。

3つ目は、地域とつながる取組です。

東条学園は、学校運営協議会を設置した学校、「コミュニティ・スクール」として出発しています。コミュニティ・スクールとは、保護者や地域住民が、一定の権限と責任を

もって学校運営に参加することで、育てたい子ども像や目指すべき教育のビジョンを学校と共有し、その実現に向けて協働する仕組みのある学校のことです。

第1回の会議では、校長が目指す教育ビジョンを説明し、学校運営協議会で承認されました。

第2回の会議では、学校から「見守り隊活動」、「学習支援」、「学校環境づくり」などの地域学校協働活動が提案され、承認されました。右の写真は、地域学校協働活動として実施された地域の方との学校近くの花壇の花植えの様子です。

2月には、地域学校協働本部が設置されました。今後、地域学校協働推進員が中心となって、学校と地域とを結ぶ学習や活動を推進し、「学校を核とした地域づくり」を進めていきます。

このように、東条学園では、「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいます。滝野地域においても、小中一貫校開校年度より学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして出発します。

また、地域とつながる取組のひとつとして、ふるさと学習「かとう学」が昨年度からスタートしています。ふるさと学習「かとう学」は、加東市の自然や地域人材などの教育資源を活用して、郷土の自然、歴史、文化に触れる学習です。ふるさと学習は、教科として位置付けるものではありませんが、「かとう学」副読本を活用し、教科横断的にふるさと加東のことを学び、教科の学習内容の理解を深めるとともに、郷土への愛着を深め、よりよい社会づくりに向けて主体的に行動する態度を育成します。

以上が、加東市の取り組む小中一貫教育の説明となります。

最後に、開校準備委員会の役割と今後のスケジュールについて説明いたします。

本市では、平成27年8月に加東市小中一貫教育研究会を立ち上げ、加東市における小中一貫教育の基本的な考え方とその方向性について協議していただきました。そこでは、開校のおおむね5年前に各地域の開校準備委員会を立ち上げ、地域の協力を得て、開校に向けた準備を行うものという方針をいただきました。

東条地域や社地域でも、開校予定の5年前に開校準備委員会を立ち上げ、開校に向けた協議を進めてきました。

また、開校準備委員会の中に2つの委員会を設け、設計コンセプト、基本設計・実施設計、通学路・通学方法、愛称、校歌や校章、標準服についても協議を進め、決定してきました。

なお、PTA組織や学校の核となる校訓や教育目標、学校行事等については、教職員で構成する「加東市小中一貫教育研修会」の中で、協議を進めていく予定です。

滝野地域開校準備委員会では、今年度、校舎の施設設計の方針や通学手段の検討作業に取り組みます。

滝野地域小中一貫校の完成に向けて、今後も委員の方々をはじめ、地域の皆様のお力をお貸しください。

なお、今後の小中一貫教育の進捗状況については、加東市のホームページや小中一貫教育だより、加東ケーブルテレビで、お知らせしていきますのでご覧ください。

以上で説明を終わります。

(事務局)

「加東市の取り組む小中一貫教育」や「開校準備委員会の役割と今後の予定」について、ご説明させていただきました。

続きまして、資料4をご覧ください。

開校準備委員会等教育施策の組織並びに工程表の案をお示しさせていただいています。

上の段の左側、小中一貫校開校準備委員会と記載しているところですが、開校準備委員会では、施設整備、学校運営、そのほか懸案事項の協議、報告を行います。

また、開校準備委員会の中に、施設整備委員会と学校運営委員会、2つの専門委員会を設けさせていただきたいと思っております。

施設整備委員会では、今年度から学校施設の設計の方針等の検討と一緒に協議していただきたいと思っております。

学校運営委員会では、今年度から通学路や通学手段といった通学関係の検討と一緒に協議していただき、また、小中一貫校の校名愛称や校歌、校章等の協議をしていただきたいと思っております。

下の段になります。学校やPTAの皆様と一緒に、制服や体操服等の標準服の検討、PTA組織の検討等、行っていききたいと思っております。

これらの内容につきましては、開校準備委員会に適時ご報告させていただきたいと考えています。

下の方になります。小小・小中交流活動の促進ですが、小中一貫校へのスムーズな開校に向け、滝野東小学校と南小学校、両小学校と滝野中学校の交流活動を行ってまいります。

また、出前授業ですが、小学校の先生が中学校へ、中学校の先生が小学校へ出向き授業を行う出前授業も引き続き実施します。

最後に、一番下の段のところですが、小中一貫校の建設関係の工程を記載しています。

令和4年度は、小中一貫校の基本計画を策定、その中で施設整備委員会の委員さんと協議をさせていただきたいと思っております。また、この基本計画では、小中一貫校の建物の大きさや学校敷地の検討、建設工事費がどれぐらいになるのか等検討してまいります。令和5年度に基本設計、令和6年度に実施設計、令和7年8年に建設工事を行う予定です。

続いて、資料5をご覧ください。

令和4年度の開校準備委員会のスケジュール案をお示ししています。

開校準備委員会では、本日、第1回目の委員会を開催させていただいています。

7月下旬から8月下旬にかけて、先進校の視察を予定しています。小中一貫校を行っている学校を実際に見ていただきたいと思っております。

10月には、専門委員会からの経過報告、2月には方針決定、次年度以降の委員会の運営等、協議をさせていただければと思います。

施設整備委員会では、7月、8月、11月、12月に、施設設計の方針等の検討を行いたいと思っております。

学校運営委員会では、6月、8月、10月、11月に、通学関係の検討を行いたいと思っております。

施設整備委員会、学校運営委員会で検討していただいた案を、上位の開校準備委員会で協議するという運びとなっています。

開校準備委員会の協議内容については、市のホームページや小中一貫教育だよりを通じて、事務局からお知らせしますが、各種団体におかれましても、協議内容を持ち帰っていただき、周知の程、よろしくお願いいたします。それぞれの委員会の開催時期や回数については、現時点での案となりますので、協議状況等より変更が生じます。

ご了承をお願いします。

開校準備委員会の委員の皆様には、「施設整備委員会」か「学校運営委員会」のどちらかの委員会に入ってください、今後、専門委員会から協議を始めさせていただきたいと思っております。本日、机の上に報告書を置いております。

報告書をご覧ください。右上のところに、委員のお名前を記入していただき、希望される専門委員会、「施設整備委員会」か「学校運営委員会」のところに丸で囲んでください。また、施設整備委員会、学校運営委員会、どちらでも良いと言われる委員さんは、両方に丸囲みをお願いします。

報告書については、17日までに返信用封筒にて、ご返送ください。また、本日、お帰りの際に提出していただいてもかまいません。

以上で説明を終わります。

(委員長)

開校準備委員会の組織、予定、小中一貫教育、スケジュールの4点について説明がございました。

専門委員会が2つあり、検討事項が決まっています。特に、施設設計であるとか、通学の関係は、今年度に準備委員会の中で検討するようになっております。

また、専門的な事柄については別途組織があり、こちらからはまた相談があるというような説明がございました。

今、説明された事につきまして、何かご質問、ご意見等ございましたら、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

資料3の2ページ目の加東市の小中一貫校、まず義務教育学校、これが東条地域に該当し、1つの学校で校長は1人ということになっていますが、滝野地域、社地域は併設型の小中一貫校ということで、基本的には小学校と中学校があるという考え方でよろしいでしょうか。であるならば、滝野の場合、校長先生は1人で小学校に1人、中学校に1人という考え方ですか。また、教頭先生についても同様に扱うということですか。

社の場合は、小学校5校ありますが、それでも校長1人、中学校に1人ということになるのですか。

また、併設型になってくると、現在の滝野中学校の場所に建設すると、小学校新設という考え方になるかと思います。この前は学校評議員で中学校へ行かせていただいたが、中学校は恐らく既存のままではないかという話が出ていました。教室を見ますと、40人ぎりぎり、先生の机が廊下に出ていました。

「少し狭いのでは。」と校長先生に言うと、中々難しいとのことだった。これは施設整備委員の方に任せることになると思いますが、この際、中学校もある程度の配慮もして頂きたいなと思いました。

ただ、第1ステージが1～4年と第2ステージが小学校5年生～中学1年生、第3ステージが中学2年生、中学3年生と別れますが、問題が発生したときに、これを校長2人でどのように責任分担するのか教えてほしいと思いました。

以上です。

(事務局)

併設型小学校中学校の校長の人数についてお答えします。東条学園では、義務教育学校ということで1つの学校という認識でとらえてください。一方で、滝野地区で目指すのは小学校と中学校の併設型ということで、小学校の校長が1人、中学校の校長が1人となり教頭についても同様です。

それぞれ2つの学校という形態で運営していきますが、併設型の一体型の校舎というメリットを生かしまして、9年間のつながりのある教育をするということは、東条学園と変わりはありません。

小学生と中学生がともに一体となった校舎で学べるので、小学校と中学生の繋がりをより強化して、小中一貫教育に取り組んで参ります。

また、その中で、ステージ制の問題が出ておりました。

1年生から4年生までが第1ステージ、それから第2ステージが5年生から中学1年生まで、第3ステージが中学2年生、中学3年生という区分けをしています。第2ステージが、5年生から中学1年生と跨っているのは、これまで中1ギャップということもよく言われていますが、現状、不登校の児童は6年生から中1でいきなり増えるわけではありません。5年生から徐々に小学校の高学年段階から徐々に増えるというような傾向があります。このような最も難しい時期に、しっかり小学校と中学校の教師が連携していくという意味で、第2ステージはとても重要だと考えております。

では、第2ステージはどちらの校長が管理するという件ですが、校長2人のうち、ど

ちらかの校長先生が、小中一貫教育の小学校-中学校間を調整する役目を担う校長先生になっていただくことになります。その調整役の校長先生をリーダーにして、もう1人の校長先生はその相談役という形で、小学校長と中学校の校長が連携して、1つの学校としてとらえて、小学校中学校との繋ぎ目を調整する校長先生を置くということと、それに対してその相談役の校長先生を置くということで、現在考えております。

(事務局)

滝野中学校は既存のままなのか、部屋の大きさをもう少し広げることにはできないのかという件ですが、今年度に基本計画というものを策定しております。来年度は基本設計、再来年は実施設計と進んでいきます。

現状の案では、滝野中学校周辺に2つの小学校が集まるので、新しく増築の校舎が必要であると考えております。

現在の滝野中学校の校舎につきましては、耐力度調査というものを行った上で、まだまだ校舎として使用可能であれば、長く使えるように、長寿命化の改修工事を行い、既存の校舎棟と新增築棟を合わせて小中一貫校を作っていきたいと考えています。

既存の校舎を使用するには、普通教室の大きさの問題があるので、基本計画、基本設計等で検討していくことを考えております。現在、コロナ対策ということで、以前よりも教室が狭く感じられる机配置になっておりますが、今後の基本計画の中で、検討を重ね、児童生徒にとってよりよい環境をつくることを考えております。

(委員)

先ほどの質問と似ていると思いますが、滝野中学校の場所に東小学校と南小学校、中学校が合わさって面積的に問題ないのかということは、普段から見ている人、もちろん住民も含めてですが、非常に心配しているところではあります。

同じ教育を受けさせるのであれば、広々とさせてあげたいと思うのは、地域の人間も、親御さんも同じ気持ちだと思います。

その中で、隣接地は市の土地じゃないので、様々な形で確保する必要もあるかと思いますが、そのようなことに関しては、当然地元として協力していきます。

今から基本計画を策定していく時に、今あるもので作っていく、その中で収めていくという考え方ではなく、土地確保に関して地域も協力しますので、本当にどうか大きく大らかに作って頂きたいと思っています。

また、滝野地域は上滝野、下滝野もどんどん人口が増えておりますし、多分この状況でいけば、もっと世帯が増えるのではないかと考えています。それも見越していただいて、余裕のある小中一貫校にしていきたい。この場で議論する前に、事務局で基本を作られて、案を提案する形で進行していくと思いますが、その案を初めから広く大きく考えていただきたいです。

(事務局)

学校の用地の件ですが、現状の滝野中学校の敷地では到底収まり切らないと考えています。今年度に基本計画をしていく中で、必要な面積、将来的な人口も検討した上で用地を確保したいと考えております。

用地測量等も今年度をスタートさせていただいて、来年度、用地交渉に移っていきたいと考えておりますので、ぜひその時につきましては区長さんのお力添えをお願いしたいと思います。

(委員)

学びがつながる取組みということに関しての感想ですが、移動だけのメリットしか感じなかった。今から5年間に向けていい取り組みをして、充実させて頂きたいと思います。

(委員長)

開校に向けてどのような取り組みしていくのかということかと思います。

(事務局)

プレゼンテーションでは、中々具体的な話ができなかったですが、1つは小中学校の教職員が一体となって、小中の垣根を越え、中学校の先生が小学生に授業することも日常的に可能になります。また、勉強以外でも小学生と中学生の交流も校舎が離れていると中々難しかったが、それを意図的に作ることも可能になる。

例えば体育大会においても、これまでは小学校、中学校で分けて開催していましたが、先ほど申しましたステージごとの開催や、第2ステージ第3ステージを合わせて体育大会を行うといったステージ制を生かした学校行事も可能になります。

小学生にとっては、これまでは6年生が最高の学年でモデルとなる対象であったが今度は9年生、つまり中学校3年生が学校の最高学年になり、身近なモデルとして、小学生達が、あのようなお兄さん、お姉さんみたいになりたいという、憧れの心を育むこともできます。

このような学習面だけでなく、子どもたちの人間関係のつながりにおいても成長が見込めると思います。

(委員)

資料4の工程表ですが、令和6年度から標準服等の検討となっています。東条地域、社地域と同じタイミングの検討期間になるのかと思いますが、滝野中学校はずっと長い間同じ制服を使ってきました。

今、社会の中でジェンダーフリーという考え方がありまして、本校においてもその検討が必要かなという流れになってきております。開校までずっとそれを引き延ばすということではなく、できる限り前倒しをしていただいて、少し早くなっても標準服のスタートができたらと思っております。

かばん等についても、実は今のかばんがもう生産されないという状況でありまして、検討にあたっても、この小中一貫校の開校を念頭に置きながら検討していかなければならないと考えておりますので、時期等も計画があると思いますが、必要に応じて柔軟に対応していただきたい。

(事務局)

資料4の標準服の検討ですが、予定では令和6年度から検討を始め、2年間で、制服等の検討を予定していましたが、先ほどのご要望を踏まえて、少しでも早い時期から検討スタートできるよう、調整をさせさせていただきたいと思います。

(委員長)

ジェンダーレスだけでなく障害をお持ちの方等にも幅広く対応できればと思います。

(委員長)

他は何かご意見はありますか。

[意見なし]

4. 意見交換

(委員長)

それでは最後の意見交換ですが、これから色々議論を行い、より良い教育環境を目指していきたいと思いますが、ご意見等あればこの際に仰っていただきたいです。

(委員)

意見はありませんが、この委員会が進むごとに様々な課題や意見が出てくるとは思います。その都度検討していけばいいのではないかと思います。

(委員長)

課題がまだ見えてないということもあると思います。
これから勉強をして、詳細を詰めていくというような流れになるかと思っています。

(委員)

東条はすでに開校し、社はもうすぐ開校ということで、メリット、デメリットが教育委員会の方に挙がっていると思います。そこは赤裸々にこの場で公開し、最後に建設される滝野地域の小中一貫教育が一番良くなるように、多種多様な意見を出していただきたいです。

(委員長)

良かったこと、上手くいかなかったことが過去にあるかと思っています。それらを出し合って、今何をすれば一番良いかをみんなで議論できるようにしたいという事です。

(委員)

東条の知り合いから、制服が変わるので買うのが大変だったという話は伺っております。できれば、親の負担の少ない方法で考えていけたらと思っています。

(委員長)

もう情報が出回っているということですね。

(委員)

先ほどの説明を聞いて、教育としての一貫という流れは大体わかりましたが、小学校の子どもたちの見守り隊をやっていると感じることがあります。

6年生になると子どもは急に成長する。学校の勉学とは別に、人間として成長する1つの機会だと感じています。

それを小中一貫教育の中でも、できれば残せる、あるいは生かしていけるような方法があれば一番良いと感じています。

(委員)

滝野地域は、勢いがあって、良い話し合いができて、良い方向に向かっていくのではないかと楽しみにしております。私も、ともに頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

(委員長)

時間の方が迫ってきております。特別、何か言っておきたいことはありますか。

[意見なし]

(委員長)

議事については以上でございます。進行を事務局にお返ししたいと思います。
皆様ありがとうございました。

5 閉 会

【資料名】

資料1 加東市滝野地域小中一貫校開校準備委員会委員名簿

資料2 加東市滝野地域小中一貫校開校準備委員会設置要綱

資料3 未来を切り拓く子どもを育む小中一貫教育の推進

資料4 滝野地域小中一貫校開校準備委員会等教育施策 組織・工程表（案）

資料5 令和4年度 滝野地域小中一貫校準備委員会スケジュール（案）

グラントデザイン

小中一貫教育だより

令和4年7月26日